

『田村大三に感動』 山本 静海(田村大三夫人 本会顧問)

楽友会からテーマを寄せられ、「田村大三に感動」と言う事ですが、その感動は田村大三のあらゆるステージの演奏から私は受けています。継続は力なりと言う事を一口で言い切る事の出来ない大きなものの本質が、田村大三の指笛の中にある事は私は知ります。21歳からこの道65年、12歳で指笛を覚えたのですから合わせて74年。私はそのステージを見て、この方は正に指笛を吹くために生を受け、そして天からそのためあらゆる必要とされる一番・一番を、二番とは言えない大きなものを恵みとして得ているのだと、つくづく知らされるのです。

体中が「これが指笛だぞ」と、この方は80歳過ぎる人並みはどうでもよいのです。生かされている限り指笛を生かそうと、今が大切、今しか自分はない、これで精の尽くせる限り我儘に指笛吹きとして生きようとしているのが田村大三です。

また私が思うに、つくづく「今」と言う事に田村大三の凄いいものがあって、そのため周囲は後先都合つかなくなろうが、「今」を大きくうなずく以外なくされてしまうのです。それほど「今」と言う瞬間に起るあの音色、あの感動、これこそ大きな喜びの感動です。そしてこれこそ生きる最高の喜びと思ひながら、この日々が一日でも長く続くようにと念じて止みません。

シリーズ 『私と指笛』 水沼 武彦(本会副会長)

「指一本の音楽」という小さな広告(キリスト新聞)に引きつけられたのは18歳のときであった。ピアノを習いたくも学校に一台しかない貧しい時代。指ならばある。しかし、どうするのかさっぱりわからないながら、早速手紙を出したのである。「指笛の吹き方」が送られてきた。鏡を見ながら夢中で取り組んだ。一週間程して音が出たのである。そりゃ嬉しいのなんのって。しかし、この音が本当の指笛の音かどうかわからない。それが問題、よわった。テープレコーダーの無い時代である。その事をまた手紙に書いた。当時は東京まで4時間もかかった、金もなければ時間もない貧しい高校生。上京するわけにもいかない。そういう私を心配して、田村先生ご夫妻は、演奏会のため太田市まで来られたというので、ここ群馬の藤岡にまで、足をのばして下さったのである。そのおかげで、私は初めて本物の指笛音楽を聴くことができた。忘れもしない賛美歌 310番「静けき祈りのときはいと楽し…」であった。胸は高鳴り頬はほてり、身体は震えた。こんな体験は今だかつてしたことはなかったのである。それは、指笛の素晴らしさと師の愛にふれたからであった。それ以来、指笛は私の内にひびき続けているのである。

「指笛音楽発表二十周年記念公演会」の頃である。渡米を計画していた私は、指笛

をもっと学んでおきたいと思い、先生に相談したところ快く承諾して下さい、お宅に居候をして学ぶことになった。そして公演会準備を手伝う機会となったのである。しかし、余分な部屋があるわけではない。最初は応接間に寝ていたが、何かと不都合である。そこで、先生は考えた。風呂場を私の寝室に兼用できるように作る、というアイデアである。先生と二人で作り上げた。有り難いことであった。よくも居候をOKして下さいましたものと今にして思うのである。

年月は流れた或る日、「NHKのオーディションを受けてみないか」と先生に言われて、その気になった。当日、第1テストに合格すると第2テストに進むのである。その第2テストの中で、「一分間で自分をアピールせよ」ということがあった。私はその中で「指笛音楽の喜びを一人でも多くの方に伝える使命を感じている。」と言った。昨年、韓国とモンゴルに行き、国際交流をすることができたが、その時、指笛音楽を日本の文化の一つとして紹介し喜ばれた。モンゴルの伝統芸術である馬頭琴と田村大三先生の創始になる日本芸術文化の指笛との共演は意義あり、楽しく忘れることはできないのである。私達は指笛音楽を日本文化の一つとして受け継ぎ、育てる使命を持っていると思うのである。

平成 11 年度楽友会総会報告

1月15日(成人の日)、田村先生宅に19名が集い、総会と新年会が行われました。平成10年度事業報告、会計報告、役員改選、平成11年度事業計画及び予算案についてが承認されました。

(平成10年度事業報告) (1)平成10年度総会(5月) (2)指笛楽友会規約の設定(同) (3)指笛楽友会名簿の作成(10月) (4)楽友会通信第1号発行(11月) (5)年賀状発送(総会・新年会のお知らせ)(12月)

(平成10年度会計報告) 別紙同封の通り承認 次年度繰越金は127,376円
(役員改選) 全員留任となりました。

(平成11年度事業計画) (1)平成11年度総会 (2)平成11年度新年会 (3)指笛音楽65周年記念演奏会の後援 (4)楽友会通信の発行(年4回 2, 5, 8, 11月) (5)25の会での初心者指導協力(毎月25日は指笛の日) (6)ボランティア活動の広報と訪問活動(演奏と指導) (7)年賀状発送(総会・新年会のお知らせ)

(平成11年度予算) 新規に楽友会が発足して月日が浅いので、予算案は立てずに、役員会でその都度協議しながら支出を行うことにしました。

事務局より

※指笛音楽65周年記念コンサートに楽友会会員17名が出演希望されました。大先輩の高橋義郎氏が病後のため欠場で、あの美しい音色を聴けないのが残念です。一日も早いご回復をお祈りいたします。

※2月27日は故宮城富雄氏の一周忌です。草笛と鳥の鳴き真似は天下一品でした。指笛のジャンルを拡げて下さった氏の後継者が出て欲しいものです。ホイッチャカホイ ホイッチャカホイ… 宮城せんせ〜い この鳴声は何という鳥でしたっけ。

指笛楽友会事務局
☎ 03-3923-9714
田村 大三方